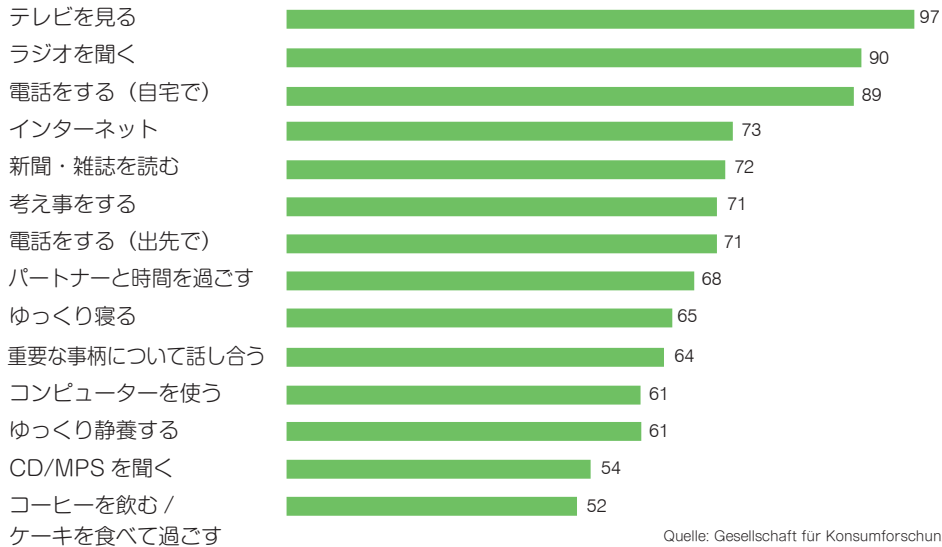


ドイツ人と余暇

100人に聞きました。余暇に定期的に（少なくとも週に一度は）していることは？



Quelle: Gesellschaft für Konsumforschung 2013

上の統計グラフは、「少なくとも週に一度はすることといえば？」という問いに対してドイツ国民が2013年に答えたものです。それによると、ドイツでは余暇にすることとしては「テレビを見ること」が一番人気だということがわかります。テレビは1981年の調査では人気トップではなく、「新聞を読む」「手芸」「庭仕事」に次いで第4位でした。テレビは、当時は公共放送がドイツ第一放送(ARD)、第二放送(ZDF)、そして地域ごとに違うローカル局の3チャンネルしかなく、放送内容も娯楽番組よりは情報番組のほうが多いものでした。民間放送が参入したのは1984年で、今日ではブロードバンド通信を用いた145局もの放送局が音楽、ゲーム、スポーツ、ニュース、あるいはローカル情報など様々な内容を提供してくれています。

今日のランキングで、余暇にされることの第2位は「ラジオを聞くこと」です。これは車の運転中や家事をしながらでも聞けるため、人気があります。第3位は「家で電話をすること」です。ドイツ人の4人に3人がインターネットを定期的に利用しており、今や雑誌や新聞を読むことよりも重要になってきています。携帯電話からの通話も近年増えてきており、ドイツ国内を鉄道やバスで移動していると、ドイツ人がいかによく通話をしているかを見てとることができるでしょう。これらの(ニュー)メディア以外には、「気ままに寝ること」のようなリフレッシュや、「物思いにふける」ような行為、また「パートナーとの時間を大切にする」「重要な事柄について話し合う」などの対人行動がトップ10にランクインしています。